

EU Indicators

欧州経済指標コメント：英国労働統計

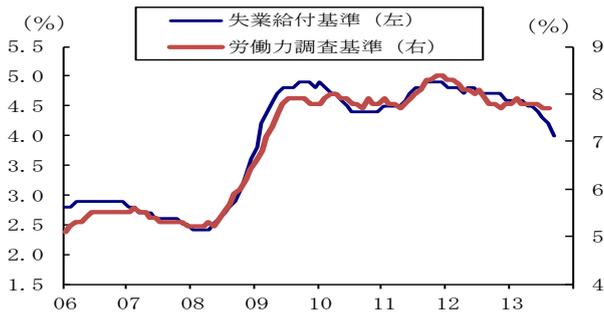
発表日：2013年10月17日(木)

～来月発表分は低下トレンドが小休止～

第一生命経済研究所 経済調査部
 首席エコノミスト 田中 理
 03-5221-4527

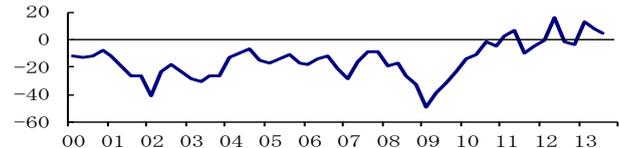
- 英国の労働力調査基準の失業率（3ヶ月移動平均、BOEのフォワード・ガイダンスの閾値）は、6-8月に7.7%と5-7月から横ばい（左図）。振れの大きい月次計数は6月：7.4%→7月：7.7%→8月：8.0%と上昇し、これは低下トレンドを辿る失業給付基準の失業率の動きと食い違っている。9月の月次計数が7.5%以下に低下しない限り、7-9月の計数は足許の7.7%から小幅上昇する計算となる。
- 一方、失業給付基準の失業率は9月に一段と低下（7月：4.3%→8月：4.2%→9月：4.0%）。同月の受給者数は前月差▲4万2千人と1997年6月以来の減少ペースを記録、11ヶ月連続で減少した。四半期平均でも減少ペースが加速しており（1-3月期：前月差▲9千人→4-6月期：同▲1万9千人→7-9月期：同▲4万人）、労働市場の改善トレンドは各種サーベイ調査でも示唆される通り（右図）。
- 今後については、労働力調査基準の失業率も月次ベースでは低下トレンドに転じることが予想される。ただ、市場が目にする3ヶ月移動平均ベースでは、8月値が上振れしたテクニカルな要因から、今後1・2ヶ月程度は低下トレンドに歯止めが掛かる公算が大きい。
- こうした足許の労働市場の動向は、BOEが8月の物価レポートで発表した失業率の予想（労働力調査基準、最頻値で7-9月期に7.8%、10-12月期に7.7%）よりもやや強い。足許の景気指標全般の改善もあり、11月の物価レポートでどのように修正してくるかに注目が集まる。

■英国：失業率

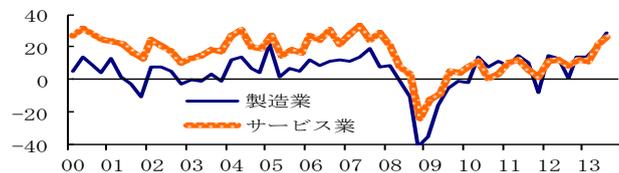


注：労働力調査基準は3ヶ月移動平均
 出所：英国連邦統計局

■英国：CBI雇用見通し判断



■英国：商工会議所・雇用見通し判断



出所：英商工会議所、CBI

■英国の失業給付・平均賃金

	2012年		2013年								
	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
失業率（失業給付、%）	4.7	4.6	4.6	4.6	4.6	4.5	4.5	4.4	4.3	4.2	4.0
失業給付件数（前月差、千人）	-5.0	-13.9	-10.7	-5.3	-9.9	-11.8	-16.2	-29.4	-36.3	-41.6	-41.7
失業率（労働力調査、%）	7.7	7.8	7.8	7.9	7.8	7.8	7.8	7.8	7.7	7.7	-
就業者数（前月差、千人）	99.0	51.0	-19.0	-34.0	10.0	48.0	-42.0	63.0	59.0	33.0	-
就業率（%）	71.5	71.6	71.5	71.4	71.4	71.5	71.4	71.5	71.6	71.7	-
週当たり平均労働時間（前年比、%）	0.3	0.6	0.0	0.0	0.6	0.6	0.0	0.9	1.6	1.3	-
週当たり賃金（産業計、前年比、%）	1.4	1.3	1.0	0.9	-0.2	3.9	1.8	1.0	0.8	0.4	-
賃金	1.4	1.3	1.1	0.8	0.6	1.4	1.1	0.9	1.0	0.6	-
ボーナス	0.7	0.3	0.8	-0.4	-8.1	62.3	22.1	2.9	-2.1	-3.7	-

注：労働力調査基準の失業率、就業者数、就業率、労働時間は当月で終わる3ヶ月移動平均 出所：英国連邦統計局

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。